鶴窓会だより

題字：元会長 佐藤 輝康氏 書

発　行
山形大学農学部鶴窓会
発行日 2017年12月10日
第24号
〒997-8555 鶴岡市若葉町1-23
山形大学農学部内
TEL･FAX 0235-28-2897
ホームページ kakusokai.net
E-mail kakusoukai@kdp.biglobe.ne.jp

〈特集〉「記念式典・記念講演・記念祝賀会・記念誌について」…… 03
同期会報告 …… 06　会員の声 …… 14

農学部創立70周年記念事業と「鶴窓会だより」第24号の発刊に思う

山形大学農学部鶴窓会
会　長　佐藤　晨一
（昭和41年農学科卒）

会員の皆様には日頃より鶴窓会に格別のご支援とご高配を賜わり感謝申し上げます。

さて農学部創立70周年記念事業については昨年「鶴窓会だより」第23号でご案内のとおり、本年10月14日に記念式典、講演会、祝賀会が文部科学省、山形県知事、鶴岡市長のご来賓をはじめ、約200名のご参列を得て盛大に挙行することができました。

今回の記念事業は母校農学部が平成16年独立行政法人になってはじめてであり、その実施主体となられ3年前から準備が進められました。鶴窓会からは5名の役員が実行委員会に入り記念誌編纂などの準備を支援してきました。そして上梓された記念誌（361ページ）は式典会場となった東京第一ホテル鶴岡の会場入口に展示され、募金応募者等に発送を待つばかりとなりました。

また本年6月には鶴窓会としては「70年の歩み」を新たな名簿管理体制になってからはじめて会員名簿を記念事業の一環として発刊したところです。

ここに記念事業への募金や名簿購入にご協力いただいた多くの鶴窓会会員には厚くお礼を申し上げます。

さて、記念事業については特集として別途構成しましたが、記念講演は卒業生によるリレー講演「当時の農学部をふりかえって」と題して70年を4つに区切り、各4名の発表者が壇上に立ち発表されました。発表者は創立に近い順で金内英司元山大農学部教授昭和25年林科卒、奥泉久人国立農業・食品産業技術総合研究所主席研究員昭和61年林学科卒業、滝澤匡山形大学地域教育文化学部准教授平成11年生物生産学科卒13年修了（鶴岡市に10年間在住）、上山剛司鶴岡市自然学習交流館「ほとりあ」学芸員平成19年修了で専門的な質疑応答も行なわれました。70年というときの流れを感じるとともに、そして会員の多岐にわたるご活躍や切り開かれた道に敬意を表したいと思います。

記念祝賀会ではこの祝賀会にあわせた同期会や同級会などの企画に遠路参集された会員とも交歓することができ大変有意義なひと時となりました。私の場合も市内の旅館で農学科同級会が企画されており、祝賀会終了後直ちに向かうという次第でした。最後に皆様の募金から農学部に記念品（除雪機）を贈ることが可能になったことはなによりでした。これも会員をはじめとする教職員関係者からの募金の賜物と感謝申し上げます。

本年の鶴窓会活動も創立70周年記念事業の準備とともに通常活動が行なわれ、鶴窓会各支部総会の開催時期は例年6月に関東支部、宮城県支部、福島県支部の順に開催され、本年もそのように実施されました。9月9日の山形県村山支部総会、10月8日の関西支部総会の順に開催され交流を深めることができました。

また、山形大学全学の同窓会組織である校友会は昨年設立10周年記念式典、講演会（上田準二氏昭和45年文理学部卒：ファミリーマート再建の経験に学ぶ）が行なわれそのご案内に応じ、また本年も校友会をとおして各学部の同窓組織との情報交換会（9月24日）に参加しました。地域事情から関西支部総会では校友会及び各学部同窓会代表からもご出席いただき開催する形態を取っており、相互の連携（ネットワーク）を重視しているところです。

最後にこの紙面は会員皆様からの会費によって賄われています。一般会費納入についてはどうぞご理解の上よろしくお願い申し上げます。

（平成29年10月18日記）

著書の紹介

文芸書 歴史長編 戦記小説「小説太田道灌の戦国決戦」の紹介

神奈川県在住
加藤　美勝
（昭和34年農学科卒）

「今から五百六十年前、関八州に風雲急を告げる如し戦国時代の初頭―。武蔵国江戸郷（現東京）は、天の恵みに満ちていた」この小説の切り口である。

本書は、室町時代の戦国武将で江戸城（東京都千代田区、皇居東御苑辺りに）を築城した文武の名将太田道灌の劇的な生涯を描いたものである。

明治維新以来の教科書にも載る太田道灌。各地に点在する道灌の銅像や「山吹の里伝説」そして和歌の数々…。その道灌の知られざる実像に迫る！

当時、関東八カ国と伊豆国は戦乱に包まれていた。京の室町幕府足利将軍・足利鎌倉公方・上杉関東管領などの衝突、そして長尾景春の乱など、京の応仁の乱に先駆け、戦国時代に突入していた。太田道灌は、扇谷上杉家の家宰（かさい）で、まだ鉄砲が伝来しない時代に、駿馬（しゅんめ）に跨り挙兵、足軽戦法を編み出し、関八州を平定し平和が訪れた。それは、原野での野戦・山岳戦・籠城戦で連戦連勝であった。

しかし、主君の扇谷上杉氏に妬まれ、相模国の館に招かれ暗殺された。再び関東は戦乱に！これに乗じ、小田原の後北条氏が関東に進出していく。（著者作・復元古図、道灌年表付）

「小説太田道灌の戦国決戦」
―江戸城を築城・関八州平定始末記―
加藤美勝／知道出版（東京）
2017年4月発行　1800円（税別）

「戦後小樽の軌跡―地方都市の衰退と再生―」

東京都在住
山形大学名誉教授
内藤　辰美

いま、地方創生が叫ばれています。地方創生は日本が直面する重要な課題であることにまちがいありません。

この書はそれを意識して書かれました。先に刊行した『北の商都小樽の近代―ある都市の伝記―』（春風社、2015年）の続編という意味も持っています。本書では、戦前、北日本随一の商業都市として繁栄した小樽市が、戦後、衰退したのは何故か。その原因は何かを解明しようとしたものです。盛衰には、それが都市であれ、企業であれ、かならず原因があります。小樽市の衰退にも複数の要因が絡んでいますが、特に、日本資本主義の地域政策・自治体による都市再生事業の失敗・衰退を加速させた市民文化などを指摘することができます。小樽市の再生には、失敗の原因を確認し、反省の上に立って、進むべき方向を明確にする必要があります。本書では、「再生」の課題についても提言をしてみました。

なお、本書は小樽市を事例にした研究ですが、小樽市の教訓は地方創生にも役立つと考えています。

「戦後小樽の軌跡―地方都市の衰退と再生―」
内藤辰美・佐久間美穂／春風社
2017年7月発行　4104円（税込）

「カラスと人の巣づくり協定」

山形大学農学部客員教授
後藤　三千代

カラスは昔から人間社会のごく近くで生きている鳥で、人間との間に様々のトラブルをおこしながらも夕焼けの風景画の中では人間社会の大事な構成員の一員として収まってきました。ところが近年、カラスと人間の関係は悪化の一途をたどっており、電柱の営巣問題は典型的なその一つの例といえるでしょう。

毎年春になるとカラスが電柱に巣を作り、電線に触れて各地で停電が起き、問題になっています。山形県ではここ数年、7000前後の巣が撤去されています。カラスはなぜ電柱にこんなに多くの巣を作るのだろうか。

この本は、そのような疑問を解くヒントを探すために30年にわたって調査したカラスの生態をまとめたものです。

「カラスはなぜ電柱に多くの巣を作るのか」という問いは、これまで、「カラスの勝手でしょ」という、あきらめの捨てゼリフでお終い！でした。確かにカラスの勝手かも知れない。でも、上からの目線で突き放すのではなく、同じ立ち位置で問えば、本音を得ることが出来ることを知りました。電柱にカラスが多くの巣を作るのには、明確な根拠と二つのカラクリがありました。カラスは繁殖期に自分のなわばりの中に（たった！）二つの巣を作って次世代を残すことをご先祖様から引き継いだ使命として果たそうとしているのです。一つ目のカラクリは、その巣を撤去すると、カラスはどうするか、です。勿論カラスは諦めることなく、再営巣を繰り返し、その結果、巣の撤去数がどんどん増えます。一方、地域によって撤去数には大きなばらつきがあり、岩手県は山形県の僅か6％に過ぎません。二つ目のカラクリは、巣の材料を調べることでヒントを得ることが出来ました。巣の材料に地域の農業特産品の廃棄物が多量利用されていたのです。巣材の豊富さが、巣を作ることを後押ししていたことが分かります。

つまり、二つのカラクリとも人間社会に反応しながら巣づくりが行われていることを示しています。対策は、人間側が作り出した原因を如何にして取り除くかで、「カラスと人の巣づくり協定」を結ぶ時代に舵を切ることが出来そうです。

「カラスと人の巣づくり協定」
後藤三千代／築地書館　126ページ
2017年6月刊　1600円（税別）

〈 山形大学農学部創立70周年記念事業 〉

特集 Feature

記念式典・記念講演・記念祝賀会・記念誌について

林田光祐農学部長

平成29年10月14日(土)に東京第一ホテル鶴岡を会場とし、山形大学農学部創立70周年記念式典・記念講演会・記念祝賀会が行われ、卒業生や大学関係者172名が参加し、これまでの足跡を辿るとともにさらなる発展を祈念しました。

記念式典では、林田光祐農学部長の式辞、小山清人山形大学長の挨拶の後、文部科学省高等教育局専門教育課長、山形県知事、鶴岡市長からの祝辞が述べられました。

また、基金にいただいた寄附金の中から、記念品として高性能の除雪機を購入することについての紹介も行われました。

記念式典終了後、堀口健一教授(記念式典部会委員)が進行を務め、「当時の農学部を振り返って」をテーマにした卒業生によるリレー講演が行われました。

各年代を代表する4名の卒業生(金内英司氏　昭和25年卒、奥泉久人氏　昭和61年卒、滝澤匡氏　平成11年卒・平成13年修了、上山剛司氏　平成19年修了)に講師をお引き受けいただき、リレー形式で、在学当時の校舎・演習林の様子や恩師・友人との思い出、現在の仕事内容などについて、写真やエピソード等を交えながら、順次ご講演いただきました。

このリレー講演には、一般市民及び在学生の参加もあり、講演終了後、非常によい講演だったとの感想が多数寄せられました。これもひとえに、卒業生である講演者のみなさまのご尽力によるものであり、この場をお借りし、心より感謝を申し上げます。

その後、2階へ会場を移して行われた記念祝賀会では、林田光祐農学部長の挨拶、比屋根哲岩手大学大学院連合農学研究科長と菅原眞一農学部後援会長から祝辞が述べられた後、安田弘法鶴岡キャンパス担当理事のご発声により、山形大学農学部オリジナル純米大吟醸酒「燦樹(きらめき)」で乾杯がされました。

記念祝賀会の中盤では、アトラクションとして、本学部の学生サークルである「花笠サークル　四面楚歌」による花笠踊りが披露され、ダイナミックな踊りで祝いの場に華やかな花が添えられました。

最後に、佐藤晨一鶴窓会長による万歳三唱が行われ、盛会の中、記念祝賀会を終えることができました。

多数の方のご参加、誠にありがとうございました。

創立70周年記念実行委員会 事務局

目　次

会長挨拶 …… 1
佐藤 晨一(昭和41年農学科卒)

《特集1》 …… 3
「記念式典・記念講演・記念祝賀会・記念誌について」

同期会 …… 6
梅津 孝夫(昭和37年林学科卒)
岩城 功希(昭和38年農業工学科卒)
菊池 克三(昭和41年農学科卒)
小杉 伸一(昭和42年林学科卒)
齋藤 博行(昭和45年農学科卒)
安藤 一雄(昭和51年農学科卒)
奥泉 久人(昭和61年林学科卒)
堀口 健一(平成2年農学科卒、平成4年大学院農学研究科修了)

着任のご挨拶 …… 10
吉村 謙一
斎藤 昌幸
西山 正晃
ファム ビエット ズン

学生研究支援事業について …… 12
齋藤 博行(昭和45年農学科卒)

「第6回山形大学ビーチサッカー大会」の開催 …… 13
齋藤 博行(昭和45年農学科卒)

会員の声 …… 14
山濵 敏一(昭和29年農学科卒)
加藤 守正(昭和34年農学科卒)
阿部 勝寛(昭和38年農業工学科卒)
酒井 尚武(昭和42年林学科卒)
長谷川 壽美夫(昭和45年農芸化学科卒)
鈴木 和彦(昭和45年農芸化学科卒)
赤松 儀郎(昭和50年園芸学科卒)
粟野 信善(昭和52年農学科卒)
伊藤 祐二(昭和54年農芸化学科卒)
樋上 優(昭和54年園芸学科卒)
佐藤 清丸(昭和56年農学科卒)
及川 英夫(昭和56年林学科卒)
梶田 敏博(昭和58年農学科卒)
白取 克之(平成5年園芸学科卒)
沖津(前山) 由紀(平成7年生物生産学科卒)
村上(山崎) 宏美(平成12年生物生産学科卒)
木村(菅澤) 保子(平成13年生物生産学科卒)
乙須 貴恒(平成13年生物生産学科卒)
大江 泰弘(平成16年生物生産学科卒)
蓮田(関) 沙雪(平成18年生物生産学科卒)
前山 俊隆(平成22年生物生産学科卒)
鈴木 隆由輝(平成24年大学院農学研究科修了)
今野 真輔(平成27年食料生命環境学科卒、平成29年大学院農学研究科修了)
佐藤 祐希(平成28年食料生命環境学科卒)

在学生の声 …… 31
白井 拓也　鳥田 廉　鈴木 大規

留学生の声 …… 32
Hideraldo Salomão DUARTE

支部報告 …… 33
北海道支部　庄内支部　村山支部
置賜支部　宮城県支部　福島県支部
関東支部　関西支部

訃報 …… 39
鶴窓会事務局からのお知らせ …… 39
平成28年度事業並びに活動報告 …… 39
平成29年度代議員会報告 …… 40
人事異動 …… 40
平成29年度事業計画 …… 41
幹事及び代議員名簿 …… 41
平成28年度決算・特別会計積立金決算 …… 42
平成29年度予算・特別会計積立金予算 …… 42
平成28年度就職状況 …… 43
編集後記、編集委員 …… 43
著書の紹介 …… 44
加藤 美勝(昭和34年農学科卒)
内藤 辰美
後藤 三千代